

赤松小三郎研究会で講演会 8月5日

『赤松小三郎と幕末上田藩』(尾崎行也氏)

記録的猛暑が続く8月5日(日)、日本教育会館(千代田区一ツ橋)で関東同窓会赤松小三郎研究会主催の講演会が開催され、上田高校同窓生とそれ以外の人、85名が参集した。上田ケーブルTVの取材も入り熱気に包まれた会となった。

なお、同研究会主催の講演会は今回で5回目を数える。

講師の尾崎行也さんは長野県地域史研究家として著名な方で、演題は『赤松小三郎と幕末上田藩』、たっぷり2時間の講演となった。

冒頭、「上田藩藩主の歴史で真田氏が40年、仙石氏が80年、松平氏160年と倍々の統治年となっている」こと。「大河ドラマ「真田丸」で三谷幸喜さんを評価するのは、幸村でなく信繁という正式の名前を全国的に有名にした」ことについて話し始める。

その後、上田藩松平氏の歴史と系譜、赤松の実家(芦田家)と養子先の赤松家の略譜について分かり易く講義してもらい大変勉強になった。

尾崎さんは同窓生ではないが、信大(繊維)を卒業後、県内高校の化学の先生をしていたという。当日は野沢北高時代の教え子の方々も出席されていたが、今年85歳にあるとは思えないお元気さに驚いた。

講演の中で歴史に学ぶ大切さを強調していたのが印象的であった。

(2018年8月9日、上原記)

【写真1: 講演する尾崎行也さん】 写真はいずれも関東同窓会本村編集長撮影



【写真 2: 熱心に聞き入る参加者】



【写真 3: 会場から質問が】

